



Be a gift to the world

世界への
プレゼントになろう

2015-16年度国際ロータリーのテーマ

Weekly

尾張旭 ロータリークラブ

・会長 古橋エツ子 ・幹事 森井 晴生 ・クラブ会報 桜井 雅博
・例会日 毎週金曜日 12:30 ・例会場 〒488-0801 尾張旭市東大道町原田2570-3
・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
E-mail: jimmu@owariasahi-rc.org URL: http://www.owariasahi-rc.org



本 日 第2199回 2016年5月27日(金) No. 2084

本日のプログラム Today's Program

卓話担当者: 飯田 幸雄君

点 鐘

卓話者: //

ロータリーソング 「奉仕の理想」

演題: 「医学会における最新 情報・
C型肝炎治療法について」

前 回 第2198回 2016年5月20日(金) 記 録

早朝例会 担当者: 例会運営委員会

於良福寺

○斉唱: 「奉仕の理想」

○来訪者: 名古屋名東RC 砂田 知昭君 他 17 名

出席者: 会員 21 名中 13 名出席 出席率 61.90%

前々回補正出席率 5 月 6 日分 95.23%

副会長あいさつ 加藤 清久



本日は、例年通り良福寺
さんのご住職のご協力を
得て座禅をさせていただきました
ことになりました。と
ころで、たまたま今朝、N
HKのラジオ放送を聞いて

ていますと、どこかのお坊様の講話でしたが、おっし
やるには、日本人は、この前の九州の地震、東北の津

波でも誰も暴動や犯罪を犯さず整然と並んで救援物
資を受け取られていた、諸外国では考えられない事だ
と。何故だろう、それは、知らず知らずの間に、日本
人の心の中に仏の教えが染みこみ、それが、代々受け
継がれてきた結果であると。遠く中国インドからでの
教えが、今日の日本人を育てているのか。その意味で、
本日の機会、「大切なひとときとして座禅を」とご挨拶
させていただきました次第です。

幹事報告

- ・5/18(水) 地区社会奉仕委員長会議
於名鉄グランドホテル 菊田社会奉仕委員長出席
- ・次回の会合: 次期OFDY委員会

ロータリー親睦活動月間

	6月3日(金)	6月10日(金)	6月16日(木)	6月24日(金)
例	卓話担当者: 仲澤 昌容君	卓話担当者: 職業奉仕委員会	6月17日(金) 振替	定款6-1による
会	卓話者: 日本文字文化機構 常務理事 書道研究	卓話者: 古橋 裕志 職業奉仕委員長	夜間例会 於日本料理「伊勢」	休会
予	飛墨会代表 伊藤 苔石様	演題: 「職業奉仕について」		
定	演題: 「目からウロコの おもしろ漢字」			

於尾張旭市商工会館内 第一会議室 13:40～
・5/24 (火) 愛知長久手ロータリークラブ夜間例会に
古橋エツ子会長 森井幹事 桜井広報委員長 が出席
しました。例会場は、尾張旭市にある「ぎやらりいか
ふえ華野」

ニコボックス

○出席者全員からいただきました。

加藤 清久君・森井 晴生君・飯田 幸雄君
井田 武憲君・江尻 豪君・金森 俊輔君
菊田 利昭君・桜井 雅博君・谷口 伸夫君
西尾 輝久君・舟橋 龍秀君・箕輪 良孝君
山田 直樹君

早朝例会

日時：5月20日(金) 7:00～

場所：良福寺



「早朝例会(座禅会)」

箕輪良孝

少にして坐禅(すわ)れば 常に壮快
壮にして坐禅れば 老いて衰えず
老いて坐禅れば 生死を超える

新緑が眩い季節の中で 恒例の早朝例会が行
われました。日頃の喧騒を離れた僅かなひと時
日本人の心がよみがえります。日本人たる心が
失われているこの頃 世の中では傷ましい
事件があいつでいます。ロータリークラブは
世界の平和を願って奉仕活動をしている団体
です。発祥のアメリカ人とは異なる心もあると
思いますが、ロータリークラブの心は意外と日
本人向けです。その証拠に日本はロータリアン
が多かったのです。しかし日本人の心が薄れて
いるこの頃 新たにロータリーに参加する人
が少なくなっているのが現状と思います。

坐禅は 宗教としてとらえる部分もあります。
しかし日本の文化の中で所謂「道」を究める
様々な文化の根本に禅の心が求められてきま
した。日本の文化のみならず、様々な国の文化
にも共通したところもあります。この禅の心を
求める方法として坐禅があります。
坐禅そのものはそうむづかしいものではありません。
たかが坐禅されど坐禅なのです。

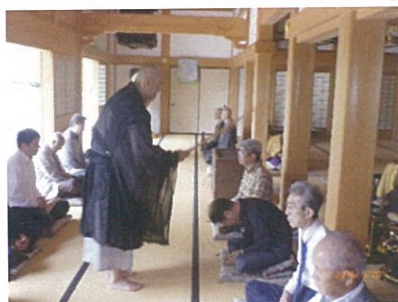


← 例会の様子

座禅会開始 →



← 警策を入れて
いただきます



心を鎮めています。→



←「心身を無にして」

